818　天野徳也氏近信

〔『法学新報』第34巻9（392）号　大正13年9月1日〕

○天野徳也氏近信　中央大学留学生天野徳也氏より七月十日附を以て佐藤理事宛の書信を左に掲く

謹啓酷暑の候如何御消光渉らせられ候哉時節柄切角御自愛奉祈候不肖義以御蔭無事勉学罷在候間何卒御放慮被成下度候扨六月十五日朝巴里を出立つプルツセル、アントワープ、ケルン特（ママ）を経て十六日午後七時伯林安着一夜柴田兄の宿に泊り翌日同兄の尽力にて最も好適なる近所の下宿に移り申候此下宿は誠に良好にて満足致居候間御安意願上候因より巴里よりは物価高く特に汽車賃書籍代日用品等何れも高価に有之差当り入用の書籍四五冊購求候処其代価約五十円（日本ならは三十円以下なるへし）にて一驚仕候乍併目下の社会状態は平静にて人気も悪しからす万事稍や落附居り且つ気候は恰も軽井沢に居るか如く好時季に際会致し天祐人助の然らしむる所と感謝罷在候斯かる次第なれは資力の続く限り此地に勉学致度多分十月頃迄は是非滞留の決心に有之其頃よりは気候も非常に寒くなり石炭の代価等にて費用も夏よりは多かるへく旁々巴

里に帰り矢張り不肖は仏学を中心として研究致す考に御座候何卒御含み置き被下度荷物は全部巴里堀越商会に託し置候

五月一日付の御念書は巴里にて拝見升本君来仏のこと承知仕り停車場に「オリンピック」の選手田代君の歓迎を兼ね出迎に参り岸博士にも面会致候仰越され候仏国自由政治学校の件柴田君を件(桂)ひ一日参観し非常に款待を受けつゝ見学仕候当時同校より得たる学則及沿革の大要外二十五年紀念演説集即刻郵送致置候処御落手被下候哉此外には別に来歴述をへたる印刷物無之由不肖若し引続き巴里に居ることならは訳して御送付可申上筈の処当時既に一切の支度を為して今日にも明日にも入独せんと云ふ際に有之候為め乍不本意材料を其儘御送り申上置候同校は御承知の如く学者の養成を目的とせす実際社会に処する活才ある人士を養成するにあれは巴里大学の方針とは大に異り居り候不肖の仏語教師（巴里大学法学部卒業者にして英仏独共に出来「ドクトル」試験の準備を為し居る人なり）の談に依れば大学生中講義は自由学校の方にて聴き国家試験の準備を為す者少なからさる由又同校には各国の新聞雑誌を特別の一室に完備し置き之を閲読して最新の知識を得ることを以て一つの必須科目とし之に専門の指導者を設け居候是等の金は掛れとも面白きこと、思はれ候

当伯林にては母校の者悉く一緒に相成り候は奇遇に有之新進の舛(升)本君は不肖等に先つて到着不肖等両名来着後中村君に報告其内ライプチツヒ出向き度旨申送候突然同君の来訪に接し一驚を吃し申候同君は既に向ふを引上げ来り是よりロンドンに赴き二個月程研究巴里に往きて又二三個月滞留の予定有之帰朝準備中の須摩(摩)君と併せて五名夫れに本多大使を加へて六名に有之候由て大使に請ふて紀念撮影を試み候故出来の上は母校に送付可仕候何卒御笑覧被下度候大使は心地好く款待し呉れられ光栄の至りに候舛本君は須摩(摩)君の尽力にて郊外良好の家庭に入り不肖は柴田君の尽力に因り最も便益なる下宿に落付き候次第御放念願上候中村君は十五日ロンドンに向つて須摩(摩)君は十八日柴田君は八月中旬何れも目出度帰朝の途に上る筈に御座候此秋は柴田、中村両兄相前後して帰朝来年の新学期よりは母校に一層の生気を加ふへく期待致居候尚ほ不肖宛の書信は独逸伯林大使館気附に御願申候匆々敬具

大正十三年七月十日　　於伯林　德也拝